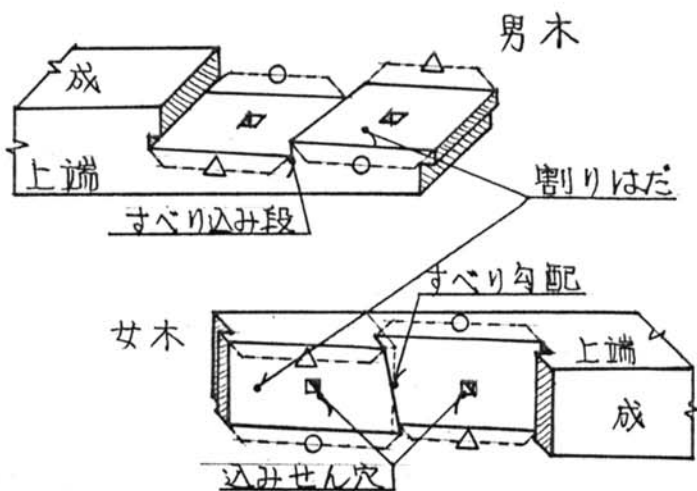
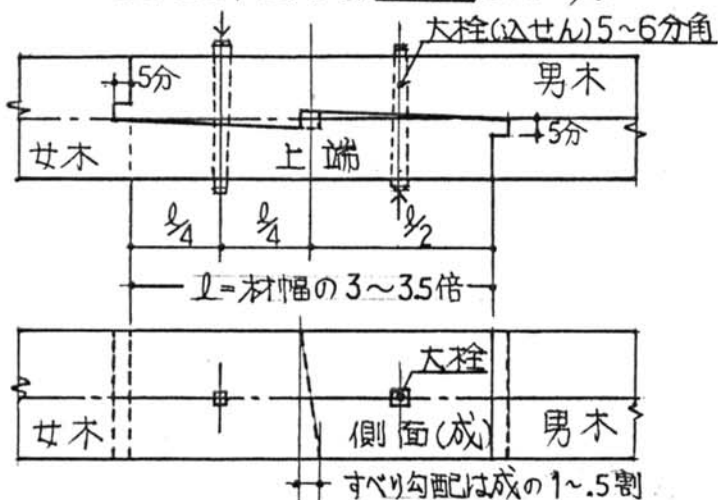


○ 追掛け大栓継ぎ・金輪継ぎ・しりばさみ継ぎ。

割り継ぎともいい。継手加工の先端断面、手元断面の違いで表記の三種類に大別される。主要構架材、桁類や棟木・母屋などの継手に用いられる。

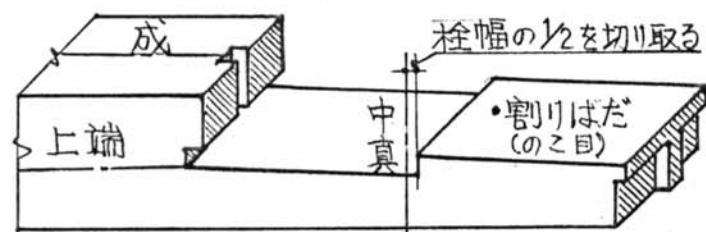
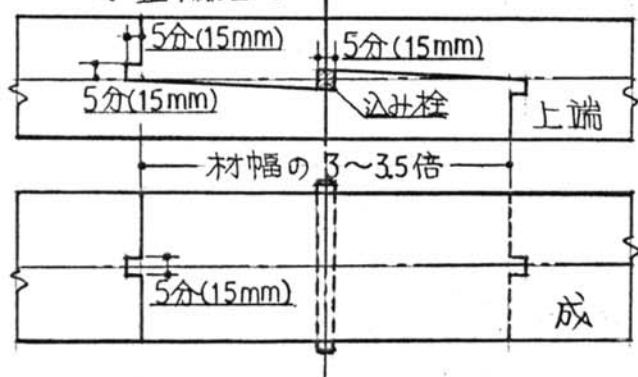
★追掛け大栓継ぎ。～大栓の変りにボルト締めや大釘打ち等が利用されている。

割り継ぎという位継手の中央のすべり勾配が反対なだけで、その他は男木と女木は同形である。女木～すべり勾配の下の方が、相手の方に突き出している。受け材(下木)である。男木～すべり勾配の下の方が、手前の方に向かっている。落とし込み材(上木)である。この継手は、上からすべり込ませ、側面から込みせんで打って緊結する。側面の加工先側からせんを打つ(左右)方向に注意。この込みせんで大栓という。



★金輪継ぎ・しりばさみ継ぎ(しっぱさみ継ぎともいう)。～継手木口にT形の目違ほぞがついている。金輪継ぎの場合はT形の目違が側面に現われるが、しりばさみ継ぎは目違ほぞはT形になっているが側面に現われない。継手加工は、男木と女木とが同形である。継手の中央を、ほぞの長さだけ短く(各々ほぞの長さの1/2ずつ切り取る)してはめこみ。込み栓を打ち込み緊結する。この込み栓のことを独鉤栓などとも云う。

※金輪継ぎ



※しりばさみ継ぎ

